

子どもの人権講座 小学生対象講座

6月25日 奥出雲町立阿井小学校 5.6年生と地域のおとな



奥出雲町立阿井小学校は中国山脈の麓の学校、中学生対象のプログラムを初めて小学校の 5.6 年生に向けて実施します。昨年度「忍者、参上！」でここも訪れ、5.6年生はそのとき「いいなあ」とうらやましく横目で見ながら体育をしていました。地域の皆さんはそのときも手伝ってくださった方もおられました。中学生のように「権利」が伝わるか、主催者としてドキドキの「子どもの権利」の学びの始まりです。

最初はグーパーから。地域のおとなのみなさんから早くも大きな笑い声が起こりました。一気になごみます。「今できなくてもいいんだよー、早くできるか遅くできるかそんな違いなんだよー」、この言葉を聞くたびにいつも思います。こんな小学校の時代にこの言葉をかけてもらっていたらどんなに楽だったか・・・と。参加したおとなの方からも同じ言葉を後で聞きました。

2人でババ抜き。そして電子レンジ鬼ごっこに移ります。これは中学生にはなかった「あそび」です。鬼になりたいと主張したのはたくさんの児童。でもこんなにいたのではどうかな？5人鬼になろうと北さんから提案です。子どもたちもそれをOK。5人の鬼も決まります。体育館中を走り回り、みんなで楽しんだ後北さんは、しっぽ取りの話、鬼は嫌だといってしまったときの「あそび」にならない話、缶ケリの話をして。「遊びのなかに権利あり」、具体的な話は児童もおとなも、すんなりと心に落ちます。

「遊びは関わりのお宝庫、遊びは学びのお宝庫」、今日の鬼ごっこも、5人が鬼になりたくて、みんながみとめた。他の人もどうしても鬼になりたくてケンカになったらみんな「不安」になって遊べなかったかもしれない、逃げる役でいいと「納得」して遊んだから「安心」して遊べた、でも鬼になりたい人がたくさんいて鬼だらけだったら遊びは成立したか、鬼になりたいのにすごく我慢したらその人は楽しかったか、北さんのいろいろな投げかけをします。そしてひとりひとりが考える時が流れます。

講座は新聞紙文字探しから新聞玉のキャッチと進みます。新聞玉は2人でした中学生とは異なり4-5人でお手玉のように回していきます。息があわないと続きません。でもとれなくても誰もせめません。あーあという顔にもなりません。笑って「やっちゃったねー」の世界です。そして、ごめんではなく、どうしたら相手がとりやすいか、続けるためにはどうしたらよいかを考えていきます。相手を思いやる、考える、伝える・・・、グループなりに次第に回数が増え輝いた顔になります。



要求と権利。2人ペアで8つの欲しいもの、必要なものを出し合います。お互いが書いたものからベスト3を出します。家、お金、案外現実的な児童の回答はおとなのそれと重なりお互い笑いが起こりました。

そしてこの「要求」が「権利」になるには？ 北さんの具体的な事例の話、顔はまっすぐ北さんに向けられ一言一言真剣に聞いています。3つのフィルター、「安心する」「その気になる」「納得する」北さんの伝えたいことが「そういうことかー」と落ちていくように見えます。



そのことの実践、人間FAXは、中学生やおとなと同じように2人組で片方が絵を伝えます。「わからないとはどんどん描く人が質問して」、という北さんのアドバイスに元気なやりとりの声が響きます。後日いただいた児童の手紙に「絵を説明で伝えるゲームは最初友だちが説明してくれたけど、とても分かりやすかったです。そして「ヘタ」とか「ちがうよ！」とか言わなかったので「けんり」をうまく使っているなあと思いました」、という感想がありました。

最後は一筆書き。相手を受け入れ、自分も主張し、折り合い、そして何より安心して楽しむ。短い時間の学びを存分に発揮した絵はとても楽しいものとなりました。

小学生時代の皆さんに「権利」は身近にあること、「互いに安心、納得、その気になること」「答えはひとつでないこと」「できるかできないかではなく、早くできるか遅くできるかの違いだけなこと」「遊びの中には学びがたくさんあること」etc・・・北さんと共にこんな大切にしてもらいたいことを伝えることができ、そして受け止めてもらったことをとても嬉しく思う時間でした。



<児童の感想>

・わたしは、権利という言葉を知りませんでした。それを北さんは、遊びの中にあるとっておられ、わたしも遊びの中に権利はあると思いました。キャッチボールでは、みんなでいけんを出し合って右まわりのときに40回もできました。それはみんなが「いけん」をだしあったからできたと思いました。ことばで教えてその人に絵を描いてもらうのが少し自分があせりすぎてまい、考えずに「ここにはこれがあるよ」といってしまい、ぜんぜんちがう絵になってしまいました。北さんは、紙を半分にして一つ一つうめていくと、描く人が安心して描けるからいいよと教えてくださったのでよくわかりました。楽しかったです。(5年 女子)

・私はこの会をやって、楽しみながら「権利」という意味をみんなで考えられたのでよかったです。一番最初のおにごっこではおにをやりたい人がたくさんいたけれど、何人かがおにじゃなくてもよいといってくれたから楽しくあそべたので、このおにごっこにも遊んでいるひとり一人に権利があるということを知りました。他の遊びも私たちが知らないうちに、権利を使っているということも知りました。もうひとつ知ったことがあります。それは新聞紙を丸めて右へ回したり左へ回したりする遊びのことです。失敗もしたけれど「どんまい」や「上手になったね」というかけ声も大事なんだなと思いました。私はバレーもやっていますが、バレーもかけ声大事だと思います。失敗した人の気持ちを考えると、少しでもそういう言葉を言ってもらえるとうれしくなります。私は次はみんながうれしくなるようなかけ声をやってみます。私が一番楽しいと思えたのは、ふたりグループにな

って人の顔を描いたときです。理由は自分の思うままに目、口、鼻、耳が描けたからです。私は権利と言う言葉の意味がよくわかりました。(5年 女子)

・ぼくは北さんといっしょに遊びながら「けんり」を考えて最初は「けんり」ってなにかなと思ったけど、遊んで分かりました。途中の2人1組で北さんが描いた絵をみてもう一人は絵を描く人で、最初は伝える人でどう伝えればいいのか分かりませんでした。でもぼくの伝え方が悪かったけど、いっしょにやってくれた人は安心してその気になってかいてくれよかったです。今日は「けんり」のことがわかってよかったです。(5年 男子)

・一番よかったのは言葉だけでつたえる遊びです。わたしが友達に、より分かりやすく伝えられるかとても難しかったです。でも「わかりやすかったよ」といわれ、うれしかったです。

その前のキャッチボールではいろんなことがわかりました。それはボールをとるのが苦手な人をせめたりしてはいけないことや、苦手の人にはとりやすいボールを投げてあげることがわかりました。それにボールとりはみんなで力をあわせてできてよかったです。遊んでいる時も「権利」ということばをわすれないでいたいなおもいました。(5年 女子)

・ぼくは人権講座をして「けんり」について考えるといわれたけど、「けんり」と聞いてはじめはピンときませんでした。でもゲームをしていくなかで、とてもよくわかるようになりました。ほしい物などを書いたりするゲームでその要求を「けんり」に変えて「たがいに安心」「他人をその気にさせる」「筋が通る、なっとく」というふうにすることが大事といわれその方が伝わりやすいしぼくも使ってみたいと思いました。おにごっこをしたときに、おにをやりたい人がたくさんいて、5人といわれ、ほかのやりたかった人はいいよとあきらめてそれが「けんり」と言われました。そこで他の人が「自分が絶対おにををする」といっていたらケンカになってみんなも不安だけど、あきらめたから「たがいに安心」「他人をその気にさせる」「なっとく」というふうにできていて、あそびと言うものは自然に「けんり」というものをしていくことがわかりました。これからも「けんり」ということばを忘れずに生活したいと思いました。(6年 男子)

・「けんり」について、人にものをいう「けんり」は私にはあるけどイヤなことをズカズカ言うのは「ひとを安心」させていないし「人をその気に」させていないし「納得」もできないので、しっかりそういうことを理解した上で「けんり」を使っていきたいなと思いました。そして最後の絵を説明で伝えるゲームは最初友だちが説明してくれたけど、とても分かりやすかったです。そして「へタ」とか「ちがうよ!」とか言わなかったので「けんり」をうまく使っているなあと思いました。(6年 女子)

・「北さんの人権講座」、最初はむずかしいお話かとおもったけど、あそびやゲームをすると聞いてとても楽しみにしていました。「権利」について考えて、「権利」というのはとても身近にしている遊びにあると聞きびっくりしました。互いに安心し、相手(他人)をその気にさせて、筋の通る納得、この三つが大事で、例えば遊びでそのゲームが苦手な人がいてもその人がいるからこそできる遊びもある、そういうことも権利なんだと思いました。遊びを通して、権利についてとてもよくわかりました。(6年 男子)

・今日は北さんといっしょに人権講座を学んで最初に「けんり」という言葉はどういうことか考えたけど、ひとりひとり「けんり」があると北さんにいわれて少し安心しました。「自分ができないからやらないと決めちゃいけないな」と思いました。お話だけでなく実際にゲームをしたり遊んだりして楽しかったです。最後の絵をおもった通りに描くのは「そうかくか・・・」と困ったりもしました。でも5.6時間目全部つかって遊んでとても楽しかったです。(6年 女子)